

OPINION

MIT(マサチューセツ工科大学)が開発したECI(Economic Complexity Index、経済複雑性指標)という指標を「存じだろつか。国や地域など巨大な経済システムの生産力を総合的に評価し、

↑ ナビゲーター

経済の特徴を測定しようとするものである。国民に蓄積された知識と経済活動を説明するのを目的として、ある国の輸出品の相対的な複雑性を示している。

2018年公表の調査(現時点での最新版)によると、

日本への期待 世界各地から

8 9

世界で最も経済的に複雑な国は日本、次いでスイスである。以下、韓国、ドイツ、シンガポールの順である。ある国のECIが高いということは、その国の輸出品が多岐で、遍在性の高い品目であり、多様な国家で生産されていることを示す。

スイスの「複雑性」と富

多様な産業

かれ多数の産業や個別ニッチ産業が存在する。スイス経済を理解するには産業集積品を含めて、多くのヨーロッパより、ニッチの存在が重要で、スイス国内には実態がほとんど存在しない(ブランドはスイスでも、製造は他国で行うような)産業があるためだ。

たことはない。その結果として、スイスは日本からの輸入品を含めて、多くのヨーロッパ諸国よりも輸入品に対してオープンで、その期間も長かった。それなら、スイスの得意分野は何なのだろうか。ある産業がスイスでの事業展開を検討するようなスイスが競争力を持ち、比較優位に立つ産業や分野は何だろうか。有名で、新聞の見出しを賑わすような機械類、時計製造、製菓、プライベートバンキング・資産管理などから、たとえは情報技術などそれほどでもないものまで多様なものがある。機械類とくに精密機械は、スイスフラン高にもかかわらず、国際的な競争力を維持し、製品の80%を輸出する。この産業は、品質、精密さ、安全性、信頼性において高い基準を持ち、研究開発や工程改善へ持続的に投資することで平均以上の技術革新をし、長期間にわたり自己革新し続けている。1970年代に消費者の嗜好(しこう)が変化し、大きな危機を迎えた後、時計製造業は、会社そのものと製品を刷新し、スウォッチに代表されるような大量生産品と、高級時計の製造技術と宝飾品や斬新なデザインとを組み合わせた超高級時計を中心に再興することができた。スイスには、世界的にも独自の生命科学の集積がある。バーゼルを中心に、ノバルティス、ロシュ、シンジェンタなどの化学・製薬会社に加え、医療技術、バイオ・ナノテクノロジーなどの企業群が集積する。この産業は、おそらくスイスで最も国際的な産業で、収入の98%は海外からのものだ。スイスの輸出品の33%は化学医薬品で、輸出のうち重要なものとなっている。

【リーム中産連】

(月曜日に掲載)